

製品名: TSLC1 ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab19368

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	49kDa

抗原情報

遺伝子名	CADM1 CADM1; IGSF4; IGSF4A; NECL2; SYNCAM; TSLC1; Cell adhesion molecule 1; Immunoglobulin superfamily member 4; IgSF4; Nectin-like protein 2; NECL-2; Spermatogenic immunoglobulin superfamily; SgIgSF; Synaptic cell adhesion molecule; SynCAM; Tumo
別名	
遺伝子 ID	23705.0
SwissProt ID	Q9BY67
免疫原	抗血清はヒト CADM1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 393-442

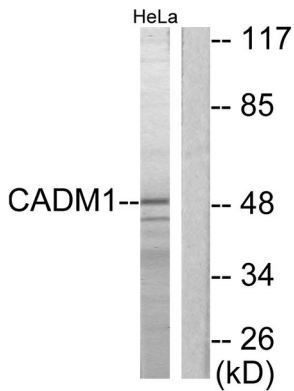
背景

疾患:プロモーターメチル化による遺伝子サイレンシングのため、多くの進行した非小細胞肺癌症例および他の多くのヒト癌において存在しないか、またはダウンレギュレーションされている。、ドメイン:細胞質ドメインは、非小細胞肺癌におけるアポトーシス促進および腫瘍抑制活性において重要な役割を果たしていると考えられる。、機能:Ca(2+)非依存的に同種親和性の細胞間接着を媒介する。また、Ca(2+)非依存的に CADM3 および PVRL3 と異種親和性の細胞間接着を媒介する。非小細胞肺癌 (NSCLC) 細胞において腫瘍抑制因子として作用する。CRTAM との相互作用により、in vitro において CD8+細胞によるナチュラルキラー (NK) 細胞の細胞傷害活性およびインターフェロン γ (IFN- γ) 分泌が促進されるほか、in vivo において NK 細胞を介した CADM3 発現腫瘍の拒絶が促進される。鱗状増殖腫瘍細胞の低浸潤性表現型に寄与する可能性がある。肥満細胞において、神経への接着を媒介し、神経との伝達を促進すると考えられる。CADM1 は MITF とともに、生体内での肥満細胞の発達と生存に不可欠である。シナプス組み立てを促進するシナプス細胞接着分子として機能すると考えられる。ニューロンの移動、軸索成長、経路探索、および分化中のニューロンの軸索上の束形成に関与していると考えられる。精母細胞と精細胞のセトリ細胞への接着、および成熟精子への正常な分化を含む、精子形成において多様な役割を果たすと考えられる。、類似性:ネクチンファミリーに属します。、類似性:1つの Ig 様 V 型 (免疫グロブリン様) ドメインを含みます。、類似性:2つの Ig 様 C2 型 (免疫グロブリン様) ドメインを含みます。、細胞内局在:生体内では核周囲膜および細胞膜と関連しています。胆嚢上皮細胞の基底外側細胞膜に局在する。、サブユニット:ホモ二量体。CRTAM および EPB41L3/DAL1 と相互作用する。EPB41L3/DAL1 との相互作用は、CADM1 をアクチン細胞骨格に固定する働きをされると考えられる。C 末端を介して MPP3 の PDZ ドメインおよび MPP6 の PDZ ドメインと相互作用する。、疾患:プロモーターメチル化による遺伝子サイレンシングのため、多くの進行性 NSCLC 症例および他の多くのヒト癌において、欠失またはダウンレギュレーションされている。、ドメイン:細胞質ドメインは、NSCLC におけるアポトーシス促進および腫瘍抑制活性において重要な役割を果たしていると考えられる。、機能:Ca(2+)非依存的に同種親和性の細胞間接着を媒介する。また、Ca(2+)非依存的に CADM3 および PVRL3 と異種親和性の細胞間接着を媒介する。非小細胞肺癌 (NSCLC) 細胞において腫瘍抑制因子として作用する。CRTAM との相互作用により、in vitro においてナチュラルキラー (NK) 細胞の細胞傷害活性および CD8+細胞によるインターフェロン γ (IFN- γ) 分泌が促進されるほか、in vivo において CADM3 を発現する腫瘍の NK 細胞による拒絶が促進される。鱗状増殖腫瘍細胞の低侵襲性表現型に寄与する可能性がある。肥満細胞においては、神経への接着を媒介し、神経とのコミュニケーションを促進する可能性がある。CADM1 は MITF とともに、in vivo において肥満細胞の発達と生存に不可欠である。シナプス形成を促進するシナプス細胞接着分子として作用する可能性がある。分化ニューロンの軸索上で、ニューロンの移動、軸索成長、経路探索、および束形成に関与している可能性がある。精子形成において多様な役割を果たしていると考えられており、精母細胞と精細胞のセトリ細胞への接着、および成熟精子への正常な分化に関与している。、類似性:ネクチンファミリーに属します。、類似性:Ig 様 V 型 (免疫グロブリン様) ドメインを1つ含みます。、類似性:Ig 様 C2 型 (免疫グロブリン様) ドメインを2つ含みます。、細胞内局在:生体内では核周膜および細胞膜と会合します。胆嚢上皮細胞の基底外側細胞膜に局在します。、サブユニット:ホモ二量体。CRTAM および EPB41L3/DAL1 と相互作用します。EPB41L3/DAL1 との相互作用は、CADM1 をアクチン細胞骨格に固定する働きがあると考えられます。C 末端を介して MPP3 の PDZ ドメインおよび MPP6 の PDZ ドメインと相互作用する。

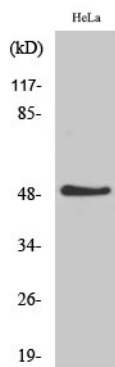
研究分野

細胞接着分子 (CAM)

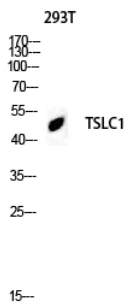
画像データ



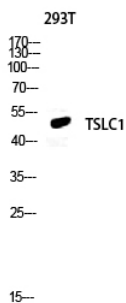
CADM1 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーン合成ペプチドでブロッキングされている。



TSLC1 ポリクローナル抗体 (1: 500 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析
二次抗体は 1: 20000 に希釈した。



TSLC1 抗体を用いた 293T 細胞溶解のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈。
二次抗体は 1:20000 に希釈。



TSLC1 抗体を用いた 293T 細胞溶解のウェスタンブロット解析。抗体は 1:500 に希釈。
二次抗体は 1:20000 に希釈。